

**[年度]** 平成23年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

**[成果情報名]** 丹波黒大豆のエダマメ栽培における品質向上・増収技術

**[要約]** 丹波黒大豆のエダマメ栽培では、開花期前後にかん水するとともに、密植を防ぎ、畝幅100cm、1条定植の場合、株間を50cm程度とすることで二粒莢が増加し、収量も増加する。また、定植後に5節で摘芯することで、草丈の伸長を抑制する。

**[キーワード]** 丹波黒大豆、エダマメ、収量、二粒莢、かん水、摘芯、株間隔

**[担当機関名]** 農業試験場・栽培部

**[連絡先]** 0736-64-2300

**[部会名]** 野菜、花き

**[分類]** 指導

### **[背景・ねらい]**

近年、県内山間部（紀の川市鞆渕地区）では煮豆用丹波黒大豆の産地形成が進む一方で、早くから販売できるエダマメ出荷が増えている。しかし、丹波黒大豆はその特性として一粒莢が多く、エダマメとして市場性の高い二粒莢を増やす栽培技術が望まれている。ここでは、開花期前後のかん水および生育初期の摘芯処理や株間隔が丹波黒大豆の生育やエダマメ収量・品質に及ぼす影響について検討した。

### **[成果の内容・特徴]**

1. 開花期前後にかん水することで丹波黒大豆の生育が促進され（データ省略）、無かん水と比べて、エダマメは約25%増収、二粒莢の収量も増加する（図1）。
2. 丹波黒大豆を定植後に5節で摘芯することで、枝数や茎径は無摘芯と変わらずに草丈の伸長を抑える（表1）。摘芯処理により、エダマメの二粒莢収量に差は認められないが、総収量はやや増加する（図2）。
3. 畝幅100cm、1条植えの場合、株間が40cmおよび45cmでは、丹波黒大豆は草丈が高く徒長傾向になり（データ省略）、二粒莢も少ない。株間を50cmとすることで、収量も多く二粒莢も多くなる（図3）。

### **[成果の活用面・留意点]**

1. 本成果は、丹波黒大豆をエダマメ用に移植栽培（黒マルチでマルチング）した成果である。
2. かん水は畝間かん水を行う。畝間かん水時は、畝間に長時間水をためないように注意する。
3. 摘芯処理は、草丈を抑えることができるため、倒伏対策としても活用できる。

[具体的データ]

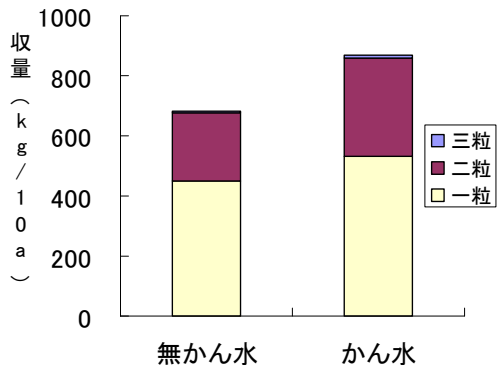


図1 開花期前後のかん水の有無とエダマメ収量

注) 開花期：2010年8月10日～27日  
 かん水処理：8月6日～8月30日迄  
 3～5日間隔で畝間かん水を実施  
 調査日：2010年10月20日

表1 定植後の摘芯が丹波黒大豆の生育に及ぼす影響

処理区	茎長 (cm)	分枝数 (本)	茎径 (mm)
無摘芯	90.4	6.8	20.8
摘芯	86.7	6.9	21.0

注) 摘芯日：2010年7月28日  
 摘芯節位：5節  
 播種：2010年6月30日、定植：7月13日  
 調査日：2010年10月20日

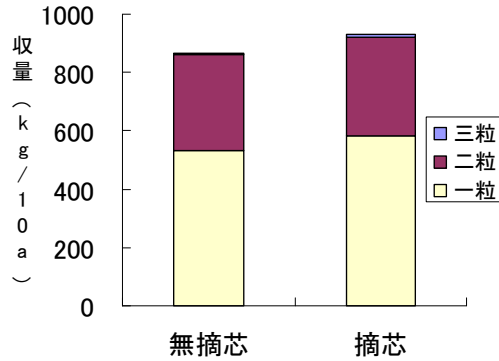


図2 定植後の摘芯の有無とエダマメ収量

注) 摘芯日：2010年7月28日  
 摘芯節位：5節  
 播種：2010年6月30日、定植：7月13日  
 調査日：2010年10月20日

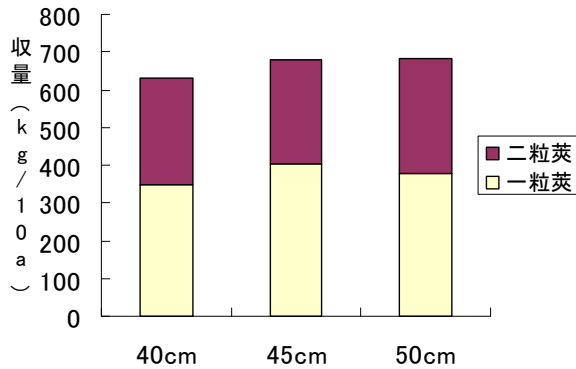


図3 株間隔がエダマメ収量・品質に及ぼす影響

注) 播種：2011年7月1日、定植：7月13日  
 栽植密度：40cm：2500株/10a、45cm：2200株/10a、50cm：2000株/10a  
 調査日：2011年10月18日

[その他]

研究課題名：品質向上のための黒枝豆栽培法の確立

予算区分：新農林水産業戦略プロジェクト推進事業「黒豆栽培における枝豆出荷の拡大と販路開拓」

研究期間：平成22年～23年

研究担当者：東卓弥、奥野憲治

発表論文等：

HP掲載の可否：可